

# 春日部市立春日部中学校開校記念日号



▲職員玄関を入った  
ところには設置してある



50周年記念航空写真



平成十八年度 十二月、合唱部関東大会参加。吹奏楽部マーチング七年連続全国大会参加。三月、電波時計一式寄贈（第六十回卒業記念）。平成十九年度 九月、メリバラ市長表敬訪問。十二月吹奏楽部マーチング八年連続全国大会参加。三月、演台カバリー一式寄贈（第六十一回卒業記念）大野靖之ふれあいコンサート。春日部の木「桐」植樹。

平成二十年度 九月、オールドリッジ高校との姉妹校提携調印式。記念樹「そめいよしの」植樹。十二月、合唱部こども音楽コンクール関東大会参加。三月、テント二張り寄贈（第六十二回卒業記念）。

平成二十一年度 三月、ビデオカメラ・DVD作成用具一式寄贈（第六十三回卒業記念）。平成二十二年度 八月、陸上部・水泳部全国大会出場。十一月、ハンドボール部新人戦県大会優勝。十二月、吹奏楽部マーチング全国大会出場。合唱部こども音楽コンクール関東大会出場。合唱部こども音楽コンクール関東大会出場。三月、プロジェクト二台・スクリーン一基寄贈（第六十四回卒業記念）同十一月、東日本大震災・生徒会による募金活動・ハンドボール部手動式発電機三十台製作被災地へ。

平成二十三年度 六月、図書室エアコン設置。十月、第一校舎耐震補強工事完了。十二月、吹奏楽部マーチング全国大会金賞受賞。合唱部こども音楽コンクール関東大会出場。

三月、組立式書架二架・回転式書架一架寄贈（第六十五回卒業記念）。平成二十四年度 八月、陸上部・水泳部全国大会出場。十月、第二校舎耐震補強工事完了。陸上部新人戦県大会男子総合優勝。十二月、吹奏楽部マーチング全国大会金賞受賞。合唱部こども音楽コンクール関東大会出場。三月、合唱用ひな壇五台寄贈（第六十六回卒業記念）。



平成二十年四月の甲での体育祭



平成二十五年年度 八月、陸上部・水泳部全国大会出場。陸上部新人戦県大会男子総合優勝。十二月、吹奏楽部マーチング全国大会銀賞受賞。合唱部NHKコンクール関東大会銅賞受賞。三月、「青少年を育てる会」より寄贈されたあいさつ標語の横断幕を設置、合唱用ひな壇五台寄贈（第六十七回卒業記念）。

平成二十六年年度 八月、陸上部・水泳部全国大会出場。九月、オールドリッジ高校との姉妹校提携調印式、フレージャーコースト市長来校。十二月、吹奏楽部マーチング全国大会銀賞受賞。レクチャーアンプ寄贈（第六十八回卒業記念）。

平成二十七年年度 八月、水泳部全国大会出場。九月、合唱部関東合唱コンクール金賞受賞。十月、陸上部ジュニアオリンピック出場。十二月、吹奏楽部マーチング全国大会金賞受賞。一月、体育館耐震補強工事完了。三月、ポータブルアンプ、チューナーマイクセット寄贈（第六十九回卒業記念）。

平成二十八年年度 七月、通常学級エアコン設置。八月、コンピュータ室入れ替え。全国中学校水泳大会男子リレー四位。九月、合唱部関東大会銀賞受賞。十二月、吹奏楽部第四十四回マーチングバンド全国大会金賞、第三十回「毎日カップ」中学校体力づくりコンテスト「文部科学大臣賞受賞、「子供と家族 若者応援団」内閣府特命担当大臣（加藤国務大臣）賞受賞。二月、吹奏楽部第四十四回マーチングカラーガード部門全国大会金賞受賞。三月、ステージバック幕寄与（第七十回卒業記念）。

平成二十九年度 五月、体育館トイレ改修工事。七月、姉妹校オールドリッジ高校訪問。八月、水泳部全国大会出場。十月、合唱部第七十二回関東合唱コンクール銀賞受賞、国民体育大会「水泳競技少年B400メートルメドレーリレー」準優勝。十二月、吹奏楽部第四十五回マーチングバンド全国大会銀賞受賞。三月、体育館用具倉庫（第七十一回卒業記念）。



## 石碑の歌

中庭の立志と刻まれた自然石のとなり、こんな石碑があります。



故 紀世乃 十五の誕生日に

逝った娘の卒業式まで何日と

ふるえる指でカレンダー追う

昭和六十三年二月十三日詠む

学校の近くで交通事故に遭い、亡くなってしまった子を思い建てられたと聞いています。このことがきっかけで、自転車通学の人へヘルメットをつけるようになったとも聞いています。ヘルメットのひもは心がけのひも。ヘルメットのひもは命のひも。この親の思いは全ての親の思いだと思います。

## 校歌

作曲 下總皖一

(明治31年3月31日  
～昭和37年7月8日)

埼玉県大利根町出身・作曲家・音楽教育家・文部省在外研究委員としてベルリンに留学。帰国後、東京音楽学校作曲家教授となり、昭和29年から東京芸術大学音楽部長を務めました。戦争が長引いても、激しくなっても皖一は美しく優しい、人の心にしみじみとしみ入る曲をたくさん作りました。戦争の前には、「野菊」のほかにも「蛭」「電車ごっこ」「たなばたさま」「かくれんぼ」「花火」「母の歌」など次々と作曲しました。その曲の中には、戦争をほめ称えるような曲はありませんでした。

どれもこれも、彼の少年時代を過ごした故郷の記憶に重なるものばかりでした。それらの曲は教科書などを通して日本中に広められました。皖一の歌を歌いながら、歌うことの喜びを感じ美しく優しい心を育てていったのです。



直筆の楽譜

(「野菊のように」-下總皖一の生涯) から)

